

芸術と憲法を考える『
連続講座 vol.20

『花ばあば』

日・中・韓平和絵本12人の画家たちの微笑みと涙



▲ クォン・ユンドク作『花ばあば』（ころから刊、2018年）より



浜田桂子（はまだ・けいこ）

1947年、埼玉生まれ。田中一光デザイン室に勤務した70年代、田島征三氏が主宰するベトナム反戦野外展に参加。1984年『あやちゃんのおまれたひ』（福音館書店）でデビュー。『へいわって どんなこと？』（日・中・韓平和絵本）など、絵本作品多数。中国、韓国、北朝鮮、メキシコ、キューバなどで、子どもたちと絵本を読みあっている。



田島征三（たしま・せいそう）

1940年生まれ、幼少期を高知県で過ごす。1965年処女作「ふるやのもり」、69年東京・日の出村でヤギを飼い畑を耕し創作活動。98年伊豆半島に移住。2009年新潟県十日町市「空間絵本-学校はカラッポにならない」を制作。ハンセン病の収容所があった香川県大島で2013年「青空水族館」制作、現在その隣りに『森の小径』を制作中。

photo by Kenji Tsuzuki

日本の絵本作家らの呼びかけで2007年にスタートした日・中・韓平和絵本のとりくみ。しかし従軍慰安婦の問題を扱うクォン・ユンドクさんの『花ばあば』だけが、日本では出版社側の事情で暗礁に乗り上げていた。

思いがけない困難に直面しながらも、何度も描き直し、作品を深化させていったユンドクさん。

田島征三さんと浜田桂子さんはその思いに寄り添いつつ、「弱い者を犠牲にする戦争の姿を表現したこの絵本は、私たち日本人にこそ必要では」と奔走し、ついに小さな出版社の勇気ある協力を得て、2018年春、出版にこぎつけた。

「表現の自由」の最前線で苦悩した、お二人の絵本作家からお話を聞く。

日時: 2019年8月28日(水) 18:30-21:00

(開場 18:00)

会場: 東京藝術大学

上野キャンパス 音楽学部 5-109 教室

※入場無料、申込不要。藝大生と一般市民のための講座です。

お問い合わせ: kenpou.geidai@gmail.com (川嶋)

主催: 東京藝術大学音楽学部 楽理科 / 後援: 日本ペンクラブ

共催: 自由と平和のための東京藝術大学有志の会

